

## 第2回 富谷市協働のまちづくり推進懇話会 会議録

日 時：令和2年2月10日（月） 14時00分～16時00分

場 所：富谷市役所3階 306会議室

参加者：別紙 会議資料のとおり（出席者：10名 欠席者：0名）

富谷市：副市長

事務局：市民協働課長ほか2名

### 1 開会（司会：市民協働課長）

### 2 あいさつ（西村副市長）

市長が、どうしても避けられない別の公務が入り出席できなくなってしまいました。市長から、皆さんにお詫びをするよう申し付かってまいりましたので、ご紹介させていただきます。よろしくどうぞお願いいたします。

改めまして、本日はとても寒い中、そして雪は溶けましたけれども足元の悪い中、そしてお忙しい中、こうしてお集まりをいただきましたこと、誠にありがとうございます。

第1回の会議では、佐々木座長をはじめ、皆様から様々な議論をしていただきました。その議論の中身を受けて、今回ルール案の素案についてお示しをし、本日、第2回の懇話会を開催させていただくということになりました。

私は昨年4月に富谷にお世話になって、ようやく丸一年が経とうとしています。富谷市は、市民の皆さんにいろんな形でまちづくりにご参加をいただいております、大変素晴らしいと思っています。

こうした形で市民の皆さんと一緒に何かをやれるというのは、もちろんそれぞれの立場でどこの行政でもやってはおりますけれども、富谷は本当にそういうところができているなと思っています。

しかし、一緒にやるという中でも、今後さらに加速していくために、どういう形で皆様と一緒に協力してやっていけばいいのかというところで、ある一定の指針となるものがあつた方がよいのではないかとということで、今回この指針づくりについて皆さんと一緒に検討させていただいているという状況でございます。

2回の懇話会で、ある程度の方向性をまず議論させていただき、新しい年度に改めて審議会を作り、その中でまた議論を深めて、ルールを作っていこうということにしております。

皆様からいろんなご意見を頂戴して、形ある、実のある、少しでも方向性が良いものになっていけば良いと思っていますので、本日の懇話会におきましても活発な議論をお願いしたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 協議事項

#### (1) まちづくりの基本となるルール素案について

**(佐々木座長)**

改めまして、佐々木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。ちょうど大学4年生が卒業論文を終えて、先週その卒業論文の発表会がありました。

今の卒業する4年生が1年生のときに、事業構想学群の200人が富谷をフィールドに街歩きをさせていただき、皆様方にいろんなところでお世話になったメンバーではないかなと思います。

4年生になると本当に成長しまして、地域の皆さんに学生を育てていただいておりますこと、改めて御礼を申し上げます。

また新しい1年生もお世話になるかもしれませんので、そのときはよろしくお願いいたしますと思います。

多くの学生が富谷からも来ておりますけれども、非常に刺激を受けて、学ぶ材料が今この富谷には本当に多くあります。フィールドワークが終わった後も、何らかの形で関わっていくということが生まれておりまして、今いろんな事業に関わらせていただいています。

おいおい、富谷の企業とか富谷の役所にも学生が入って行って活躍させていただくといいなと思っています。

前回、皆さんに第1回ということで、お集まりいただきました。前回は、ある程度最初はフリートークにしまして、皆様方にとにかくこれまでの活動、あるいは活動の中から見えている課題というものを出示していただきました。そしてルールですね。もちろん何もないと議論が進まないの、事務局に作っていただきましたたたき台を基に、本当に忌憚のない議論をさせていただきました。

今日も、ぜひ前回同様、忌憚のない意見交換をしていただければと思います。前回、皆様方にお出しいただきましたご意見を基に事務局にたたき台を作っていただきました。それを基に今日も、忌憚のない議論をしていきたいと思います。

こういったルールを作るということが目的ではなくて、こういったルールも一つの手法ということになりまして、さらにこの富谷のまちづくりが、人々が尊敬し合いながら、または若い世代、あるいは多世代が共創するようなまちづくり、共に創り合うという意味の共創ですけれども、そういった指針ができれば良いと考えています。

それでは、事務局からルール素案につきまして、ご説明をいただきたいと思ます。よろしくお願いいたします。

**※事務局から資料1，資料2に基づき説明**

**(佐々木座長)**

それでは、事前に一通り資料が送られていたとは思いますが、事務局から説明をしていただきました。まずは前回の議論から短期間でここまでまとめあげていただきました。感謝申し上げます。

これをふまえて、これから後半戦の議論に入っていきたいと思ます。まず、読

み込む時間も含めまして、ここから5分休憩をとりたいと思いますが、その前にこの段階で質問をしておきたい、あるいは言葉の意味を確認しておきたいということがありましたら、挙手をいただければと思います。

※確認事項及び質問等なし

(佐々木座長)

ないようですので、まず5分休憩をさせていただきたいと思います。今35分ですので、40分から再開します。

※5分間の休憩

(佐々木座長)

それでは、再開させていただきたいと思います。事務局からありましたけれども、私からのコメントということでお話をさせていただければと思います。

私自身も日々学生と活動している中で、このルールという言葉は非常に難しいものがありまして、言ってしまうと、何か悪いこととか、何か懸念があるときというのは、やはりルールを定めて規制をかけるというところもあります。

そういう意味では、前回もそこを最初から前面に押し出してしまうと、何らかの形で行政から声がかかって、やらされるのではないかというイメージがあるのではないかということで、名前そのものがもう少し前向きなもの、そしてこれまで市民活動が盛んですけれども、さらに盛んにするようなネーミングを含めて、そういう方針を打ち出すというのが良いのではないかというお話が出ていたと思います。

そういったことに基づいて、皆様方の発言もまとめていただき、そして素案をかなり書き換えていただいたということになっております。今日は皆様方から、前回それぞれの活動等についてお話をいただきまして、もう皆さんがどういったメンバーか分かっていると思います。特にこの資料2の部分ですね。この資料2はあくまで素案です。今回はあくまで方向性を出すというところまでが、我々に定められた役割でございます。具体的にここで今話し合ったことが決定するというわけではないわけですが、この素案につきまして、何かご発言等がありましたら、遠慮なく、忌憚なく話し合いを進めていきたいと思っています。

※資料2に基づき進行

(佐々木座長)

まず、最初の「1.まちづくりの課題及び現状」というところですが、最終的には「5.指針策定の基本的な考え方」、この辺が話し合いのキーワードになってくるのですが、課題と現状というところで、もちろん地域を掘り下げてみると、やはり行政課題、社会課題というのは複雑化している時代になりまして、1人の人がこれは

課題だと言っても、地域によってはそれが当てはまらないということが常なわけでございます。皆様が実際にお住まいになられていて、こういった素案でどうかということを出ておりますが、何かご意見はありますでしょうか。

#### (柳山様)

その問題の答えになるかどうか分かりませんが、「人口増加が続いている中で、男女、世代を問わず多くの市民が様々な分野で活躍しています」という中で、このような懇話会を開くにあたって、例えばもう少し若い世代の方がここに来られても良かったのではないかと考えています。

#### (佐々木座長)

ありがとうございます。やはり学生などを含めた若い世代ですね。特に東日本大震災後に、地域というものに若者が非常に関心を示してきています。宮城大学にもそれで地域創生学類というのをつくったところですね。震災前は、若者はいかに地元を離れるかということも一つの視点で、首都圏に行くかということもあったと思いますが、最近は自分たちの地域のことをやりたいという学生が本当に増えてきていますよね。やはりこういった何かを決めるとき、確かにそういった世代が1人でも2人でも、今後、審議会が始まる時は含めていくということもあるのかもしれませんが。本当にありがとうございます。

#### (戸嶋様)

私には22歳の孫がいます。それで、少しこの話をしてみました。今集まっている人は私と同じ年代くらいで少し若い人もいるという話をしました。すると、何で中学生とかは来ないのかと言われたのです。中学生も結構意見を持っているよと言われて、そうだよという話をうちでしてみました。

今日は、小学校5年生のミシンの使い方のお手伝いに行ってきたのですが、やはり小学5年生くらいになると本当にしっかりしています。言うこともきちんと聞いてくれるし、今本当に利口な子というか、親の言うことをきちっと聞く子というか、そういう子が多いなと思っています。というのは、自分の意見も持っているかもしれないけれど、言われることが嫌なのですね。外に違うよとか、何かと言われることが嫌みたいです。

#### (佐々木座長)

非常にそれは重要だと思います。この辺の現状のところ、学生ですね。小学生も含めてだと思いますけれども、その辺も今頑張っているということが入ってくると思いますか、もちろん私が知っている限りでは、震災直後ですね。協働というものが特に試されたというのがあります。

例えば浪江町では、移転避難して住民の意見が分断されていると。そんなときに、奇跡の復興ビジョンと言われましたけれども、復興ビジョンが策定されたとき、や

やはり子どもたちの意見を全部集めたのですよね。それが冊子になって残っていますけれども、こういうところだと子どもはどうか、と思うかもしれませんが、やはり聞いてみると、子どもたちはきちんといろいろなことを考えているということがあると思います。ただ、ここに全員連れてきて話すということにはいかないのです、例えば代表であるとか、あるいは何か配布して書いてもらうとか、そういう取組はしてもいいのではないかなと思います。

#### (増田様)

1つ目の丸の「地域活力の低下」という言葉が、少し私は気になっていて、やはり少子高齢化、高齢化が進めば地域力が、活力が低下する。イコールではないと思うのです。今言ったように、いろんな世代の人が関わる、関わり方が求められるとか、イコール低下ではなくて、中学生でも意見があるというようなことがあったので、要するに子どもも巻き込み、そして元気なお年寄りも活躍してもらいたいな方向に持っていけるような書き振りにできないかと、このイコール地域活力の低下としてしまうのが少し文章的に引っ掛かりました。

#### (佐々木座長)

なるほど。そうですね。まさに文章にしてしまうと、こうなると思うのですけれども、実際の現実を見てみると少子高齢化と言われている中で、富谷は少し事情が違うのかもしれませんが、いろんな市町で少子高齢化だからこそ、今多様な人たちが力を合わせて乗り越えようとか、あるいは自分たちのまちづくりに関心をもっと持たせようという取組をしているわけですね。

その辺のところを少し、もしかするとマイナス面だけではなくてそれをふまえたプラスの取組も芽生えていると。それまで関心を示さなかった方も危機感というものも非常に大事ですので、危機感を持ってきているということは言えるのかなと思います。

#### (佐藤様)

確かにこの「地域活力の低下が懸念される」という部分も、言葉についてはそういった部分もあるかなと思いますけれども、やはり「課題及び現状」の中で現実をきちっと見ていただければ、そういうことがあるよという部分については否めないのかなと思っております。

ですから、地域の盛り上げとか、地域の声聞いていくとか、そういった部分をどうやってこれからやっていくのかなというのが、やはり一番の問題なのではないのかなと思っています。

やはり団地については、確かに若い人たちもたくさんいらっしやって、いろんな形で盛り上がっていることがあるのかなと思いますけれども、今の旧富谷を見ていただければ分かるのですけれど、少子高齢化でなかなかそういった部分が担っていけないことも出てきているということで、この前の卓球大会を見ていただければ分

かると思いますけれども、旧富谷から出ているのは二ノ関と大童の2地区だけでした。16地区ある中で2地区だけという状況ですと、そういった部分がやはり出てきているのかなと。ですから、この卓球大会でさえそういった現状ですので、そういったことも見て、それをどうするかというのを考えていかないと、まちづくりというのなかなか進んでいかないのかと思われまので、その辺も考えていただければと思います。

#### (佐々木座長)

そうですね。確かに、地域といいましても、地域が100あれば100違いますけれども、特に富谷では急激に人口が増加していたわけですね。

確かに、旧富谷といわゆる団地の部分というのは課題が違うことが分ると良いのかもしれません。なので、地域活力の低下もやはりあるというお話だったと思います。この辺のところは両方併記するということは重要だと思います。

#### (平岡様)

平岡といいます。私は団地に住んでいるのですけれど、確かにすごく町内会の会員が多くて何かやるには、ぱっといくところもあるのですけれど、私も田舎育ちで佐藤さんみたいなところに憧れる部分もあって、旧富谷でないとできないことはやはりありますよね。旧富谷でないとできないことは、私は羨ましく思います。

団地だから世帯は確かに多いのですけれども、旧富谷にも皆に自慢できる町内会がやはりあると思いますので、そこは確かに少子高齢化になっているとは思いますが、その中の子どもがいなくても、高齢者だけでもできるものもあると思うので、それが私は協働なのかなと思います。

ありがたいことに市役所の方も、市民協働課という課をつくっていただいてからは、私たち行政区長はやはりそこを頼って、アドバイスをいただいて、それを持ち帰ってみたいなことやっているとと思うので、全部が全部ではないのですけれど、旧富谷、あと私たちの新興住宅。やり方次第では、どちらも羨ましいなど、羨む部分もあります。

低迷しているというのは、ただやっているところとやっていないところの差、果たしてどれがやっていて、やっていないのはどこの部分だということになると、やはり決まりはないのですよね。その町内会とか、その団体のやり方によっては、すごいと思う部分もありますし、何もやっていなくても、あそこはまとまっているねみたいな、やはり見方ですよね。羨ましく思ったりとか、すごくいいなと思ったりとかありますので、少なくとも市民協働課という課ができてからは、私たち行政区長は本当に助かっております。その部分だけは少し言いたかったのです。

#### (佐々木座長)

今のお話も、確かに地域課題ということですが、傍から見ると逆にそれが可能性にも見えるという部分で、ただ実際に住んでいると、やはり物足りないとい

いますか、運動会などの場でそれが可視化されてしまうという現実もあるのかなと思いました。

どうでしょうか。もし、また思いついたらここに戻っていただきまして、少しこの辺のところを、もちろんこれはあくまで素案という形で次の審議会へ引き継いでいく資料のたたき台になりますので、今の言ったようなことを少し盛り込んでいただいて、この課題にしたときに、まず行政の課題と地域の課題というのは、大きく違うのですね。そういった中で地域の課題というのも、これもまたその地域によって違い、捉え方も違うので、それに応じた見方が必要ということが今言われているのかなと思います。

ということで、最後にまたこの振り返りをしていきますが、少しこの2番の話を進めていきたいと思います。今日は5番まで流し読みという形できちんと読み込んでいきたいと思っております。2番は「協働推進に関わる本市の地域特性」ということになっております。ここでは、丸が6個出ております。この辺につきまして、ご意見を遠慮なくいただければと思います。

#### (平岡様)

一番上ですね。やはり町内会館。これは皆さんの集う場所なのかなと思いますので、この町内会館での催しをいろいろ考えると、まずはここに一番最初に出てくるのかなと思います。そこから社協なり公民館なり、いろんなところに繋がっていくような気がします。

一つの例としては、麻雀など1人ではできないもの、男だけの25人くらいの集まりがあるのですけれど、男の人たちがそこに出てくるということは70代ですよ。麻雀をやっている方は。やはり1人ではできないから4人でやる。それを今3年続けていて、これはもう成功したなと思っているのですけれども、その人たちは、敬老会の誘いがあっても、多分その麻雀の方の集まりに来ていなければ、敬老会とかお祭とかに出てこなかったと思うのです。

ですからこの会館を利用する集まりの場のところに、まず人を何か興味のあるものに来てもらって、そこからいろんな行事に繋げていく。そこでまた、社協でこんなのをやっているよとか、公民館でこういうものがあるよとか、そういう集まった人たちをうまく私はそのようにしております。

#### (佐々木(吉)様)

町内会館の活用等が大変多いということでここに書いてあるのですけれども、例えばここに事例として、例えば敬老会とか、それからカラオケ、教室とかで活用していますなどの事例を少し挙げた方が分かりやすいのではないかなと思います。どんなことに活用してどんな展開になっているのですかというのが少し見えづらいと思いました。

#### (佐々木座長)

そうですね。それはやはり今おっしゃられたことが全般的に言えると思うのです

よね。やはり文言のマニュアルというのは、なかなか正直分かりづらいのですね。ですので仙台市で協働の手引きというものを10年ぶりに改正しときに、事例集もセットで作ったのですけれども非常に好評ですね。ルールของ素案に入るかどうかは別としましても、例えば写真とちょっとした解説などがあると大学生でも分かりますよね。ここで町内会館といっても、もしかしたら若い世代は分からないのかもしれないのです。その辺は全体の見せ方に関わってきますけれど、この指針を作るときに、工夫すべきところではないかなと思います。

#### (戸嶋様)

うちの方では、太子堂会館なのですけれども、若い人は会館があっても入ったことがないというのがあって、子どもたちを集めて遊ばせるようにしました。

会館の中には、子どもたちが遊んだ様子を貼り付けて、こういう遊びをしていますよとか、いつしますよという、第1と第3と遊ばせているのですけれども、そういうのを書いて貼ったりとか、あと、ゆとりすともあるので、ゆとりすともの方も、いつ何をしましたという写真をこれでもかというくらいに貼ったりしています。

あと、金曜日に地域を見回りしてくれている男の人たちがいるのですけれども、その人たちは月1回ワンコインで飲み会をしています。あとは様々で、女子会で飲み会をしたりとか、いろんなことでうちの方は空いている日がないくらい使わせてもらっています。

#### (佐々木座長)

そうですね。そこで何で皆さんがそんなに写真を貼るかということですよ。多分簡単に二つ考えられるのは、まず一つは可視化ですよ。その活動が口で説明してもなかなか分からないと。もう一つはPRなのだと思うのです。自分たちはこれだけやっていると、やはり自分たちの地域の誇りが持てると活動が継続していきますよね。

もう一つはやはり入口だと思うのですよね。例えば会社勤めとかをしている方が、いきなり地域コミュニティに入れと言われても、企業のコミュニティと地域のコミュニティというのは全く違うので、入っても合わなくてやめてしまう方が結構いるのですよね。その辺のハードルを下げるという意味でも効果があるのではないかなと思いますね。

一番目の町内会館もそうなのですけれども、これは少し具体的に書くということもありえると思いますし、写真を載せるとか、少し全般的に工夫してもいいのではないかなと思います。やはりいかに分かてもらえるかという努力は必要になりますね。そのときは皆さん、ぜひ写真を提供していただければと思います。

#### (平間様)

私もやはり一番なのですけれども、うちの方とはちの木町内会で会館を利用しているのですけれども、うちの方にはゆとりすとというものが無いのでちの実会の方で地域の交流を図ることをやったりとか、あと若い人たちも含めてワンコイン交

流会などもしています。

とちの木町内会の敬老会も町内会館でやるようになりましたが、とちの木町内会館は結構狭くて、今現在35, 6名が参加しているのですけれども、そこに役員とかを含めると、ギリギリの場所というような状態で、もう少し会館が使いやすくなれば、参加者も増やすことができるのかなと思います。

**(佐々木座長)**

その使いやすさというのは例えば何ですか。

**(平間様)**

会館が狭いというのと、あと移動できるテーブルというのも少なく、昔式の折りたたみのテーブルを出さないと足りないとか、備品的なものです。

**(佐々木座長)**

2パターンの考え方がありますね。ハードに近い話にもなりますので、例えば会館を2倍に建て替えてくださいと要望をするのか、あるいはこのご時勢でそういった財政負担を生じないためにアイデアを出して、そのときだけは例えばテントで増設するであるとか、行政への要望型と、コミュニティでアイデアを出して解決していくという2パターンありますよね。

**(平間様)**

いろいろな面で会館は芋煮会をやったり餅つき会をやったりとかで若い人たち、小さい子どもから皆が利用する機会はずごくあると思います。

**(佐々木座長)**

そうですね。そういう意味では、今もちろん不便さの話もありましたけれども、その会館での活動が活発化しているということですよ。

**(平間様)**

はい。

**(佐々木座長)**

入りきらないくらい人が入っているということですよ。今回はまちづくりなので、どちらかというハードの方の話ではなくて、むしろその会館での活動が活発化してきているということは記録できるのではないかなと思います。建て替えとかになると別の委員会になると思います。

でも本当に重要ですね。やはりそう思うのは当然だと思います。そこをどのように解決していくか、そういうことがまさに市民力というものが試されるところではないかなと思います。

**(佐藤様)**

ハードの面については、カラオケを各町内会にというようなものがありましたよね。

東向陽台三丁目では、カラオケ大会を盛んにやって、常に集まってやっているというのを聞くと、自分たちも欲しいのだけれどもなということがあって、あれも確かにハードの部分なのですから、それを機会にいろいろな層が集まって来やすくなる。カラオケをやって酒を飲んでというのも非常に良いのかなと思います。

**(柳山様)**

それを我々がやっていて毎月35人ぐらいは集まります。

ただ、カラオケの機械は、自分たちがリースで借りているのです。

市で援助するというのも聞いていますけれども、自分らは毎月8,400円で、リースで借りてやっています。

**(佐藤様)**

会費でやっているのですか。

**(柳山様)**

会費として1,000円いただいています。その1,000円から200円をカラオケ代として800円で飲み食いして、それで大体35人くらい集まると200円だと7,500円くらいになりますよね。あと1,200~1,300円は他のところから出して、それでリース代を払って運営しています。

**(佐々木座長)**

こういう地域のノウハウですね。多分このルールのようなものを作ったとしてもこういうノウハウというのはなかなかルールに書けないのですよね。

やはり事例のようなものを何らかの形で書いていくと、各地域でそのノウハウが、なるほどとなるわけですね。最初は月8,000円と聞くと高いのですけれど、1人200円を払ってくれる人がいるというのも非常に良い事例なのではないかなと思います。聞いていくとノウハウは非常にあると思うのですよね。そういうノウハウをどう蓄積して、それを共有していくかということも、あとはルールを作ったあとですけれど、逆にもしかしたらそちらの方が重要なかもしれませんが、そういう地域の知恵ですね。いかにコミュニティを維持していくかということが重要なかなと思います。

一番目のところで非常に議論が盛り上がっているところではありますけれども他にありますか。

### (柳山様)

「新たな特産品づくり」ということで説明があったのですが、その説明に入っていないのが、佐藤さんのブルーベリーサポートとか、はちみつプロジェクト、あとは富谷茶とかそういうのをすごく市でやっておられます。

私も3年ほど佐藤さんのところでブルーベリー摘みに参加させていただいたのですが、他の例えばお母さんと娘さんが一緒にやったこともあるのですが、そういう良いところ、収穫のときだけ行くのは少しずるいかなと思うのですが、でもすごく娘さんを連れてきたお母さんは少し心の悩みがあって、いろいろとあったのだけれども、ブルーベリーを摘みに来てスカッとしたというお話をしていたのですよね。

ですから、そういうものも、旧市民と新市民の繋がりとかそういうのもできて、すごく良いことだなと思っているのですが、これからそういう例えば市民農園とかもあって、自分の考えなのなのですが、秋には収穫祭みたいな大々的なものがある、皆参加できるというそういう何かイベントを作れたらいいのかなとったりしているのですが、ブルーベリーの場合は、ブルーベリースイーツがありますよね。

それに繋げていっているイベントだと思うのですが、そういうのを何かもう少し大きくしていけたらどうなのかなとったりしていました。

### (佐々木座長)

そうですね。今おっしゃっていただいたのは、「新たな特産品づくり」とは書いてあるけれども、既にもういくつかのものがあるということですよね。

それを今、富谷では一つの特産品や名産品を地域の富谷ブランドにしていきたいのだと思うのですよね。

ブランドにしていくという意味では、大きいというのもただ単に会場を大きくという意味だけではなくブランドとして広がっていくといいますか、そういうイメージなのかなと思って聞いていたのですが、「地域福祉の推進や新たな特産品づくりなど」のところでもう少し書ける余地があるのかなと思います。

### (佐藤様)

今、一生懸命特産づくりということで、ブルーベリーはずっとやっていたのですが、他にシャインマスカットやいちじくとかを作っているのですが、やはりそういった中において、今柳山さんがおっしゃったように、地域との繋がり、先ほど少子高齢化ということでずっと旧町内会の部分では話していたのですが、やはりそこにもいろいろ特色があるのですよ。

佐々木さんみたいに自分のところで作った米で酒を造るというような部分もあるだろうし、うちみたいにブルーベリーをやったり、さくらんぼをやったり、ぶどうをやったりという形で、行ってもいいのかと来られる方が結構多いのですよ。

別にうちはそういった形でやっているわけではないのですが、皆さんが来

られるのでどうぞということをやっているのです。

新しい住民の皆さんと我々昔からの農家の繋がりという部分も含めてできればいいのかなと思います。

他町村で申し訳ないのですけれど、大和町で今農家民泊ということによって一生懸命になってやっていますのですけれど、要するに地域の新しいところから皆さんが来られて農家に泊まっていただく。農家のいろんなものを見ていただき、食べていただく。そういう事業なのですが、そういった部分が私はとてもいいなと思って応援しているのですけれども、そういうのもあるのですね。その辺も含めていろんな新住民、旧住民の繋がりというのがやはりあると思うので、せっかく富谷は新と旧とそういった方で繋がりがありますので、できればそういった形をもっと広げていっていただければ良いのかなと思っています。

### (佐々木座長)

その辺ですね、確かに物を作っているということなのですが、実は繋がりも作っているのだということは非常に重要なことだと思います。

協働という意味では、繋がりが非常に重要になってきます。大学に行きますとソーシャルキャピタルなどと言いますが、そういうカタカナは抜きにして、やはりそれが重要だということを書いていただければと思います。

### (佐々様)

私は2の二つ目の丸に社協関連のボランティアセンターと書いてある部分の一番最後の行で「地域の課題を解決する活動が芽生えています。」ということで、先ほど平岡会長さんや佐藤会長さんから町内会館を拠点としていろいろ地域活動が活発ですというような事例があって、私もやはり地域づくりの上では町内会館、町内会単位がコミュニティを形成する上では良いのではないかなと思っています。

社協のボランティア相談窓口で、この課題を解決する活動の中で、今までは人やお金だけを繋げば、例えばそこに人を派遣します。ではそこにお金を支援しますと言えば、ある程度繋がっていた部分で、では人が来てもらえるからいいねというのがあったのですけれど、今富谷の方々はこちらにも「自主的、自発的な活動」と書いてあるように、ここにはこういう情報があるので、自分で行ってくださいと言えば、そこに行き行って自分で情報を得て、やはり自ら繋がっていくという力がすごく高くなっていると感じます。

ですので、私たちも人やお金だけではなくて、最近意識しているのは情報であったりとか、あとレクリエーションなどでよく物品を借りにくる活動もあるのですけれども、そういったところでこの地域のお宝を紹介するだけでも、課題を解決する活動が広がっていくのではないかなと思っています。

あと、五つ目ですね。「東北一若く、子どもや子育て世代が多い一方」ということで、多分富谷市は高齢化率が県内一低いと思います。20パーセントぐらいということで、県内一低い自治体だということもアピールすると、富谷らしさが出るの

ではないかなと思います。

**(佐々木座長)**

そういう意味では、今三つ目ぐらいまで議論が進んできました。一つ目が町内会単位の活動だと。二番目は、今佐々さんが言ってくれましたけれども、テーマコミュニティというようなテーマ活動が盛んであると。そして三番目が、今佐藤さんたちに議論していただきました、ものづくりとありますけれども、繋がりづくりだということで上の三つですね。貴重な議論ができたと思います。

そういう意味では、その後、私も逆にこの辺は、村上さんとか増田さんに発言をお願いしたいと思っているのですけれど、「女性活躍の風土があり」というところでですね。四番目について何かコメントがあればと思っていますが、よろしいでしょうか。

**(増田様)**

女性活躍は確かに多いと思うのですが、自分がやっていると、男性の懐が深いということなのだろうと、女性がしゃしゃり出てもと言ったらあれですけど、そうかそうかと受け入れてくれる男性の度量が深いので、私たちはのびのびと活躍できるのかなと、自分が活動していると思います。男性がしっかりと活躍させてくれていると感じます。

**(佐々木座長)**

やはり最近マルシェなどを見ていると、女性の方の出店が多いのは確かですよ。富谷なら、先ほど佐藤さんからも発言がありましたとおり都市と農村部があるので、その交流があるのですけれども、やはり周辺の農村の方が、例えばお母さん方が農家の直販所をやっている姿を多く見ますけれども、それが仙台市近郊だとあまりなかったような気がするのですが、近年のマルシェは本当に女性の方が多いですよ。

**(村上様)**

今までの流れを聞いていまして、町内会館などが私の思っていた以上に活動拠点に使われているというのはすごく良いことだなと感じました。

この「女性活躍の風土」というのは、確かに自分のことで言うと、はちみつプロジェクトをやっている、ハチをやっていたのは今まで男の人ばかりだったので、女性が来るのは珍しいということもあり、いろいろとメディアとかにも取り上げられたのではないのかなというのがあります。

プロジェクトをやり始めたのが女性だから、結構入ってきた人も女性が多かったのです。それは、働いていないとか、主婦で時間が午前中だったら取れるみたいな人たちの活動の体験の場とか、そういうので女性が最初多かったのかなと思いましたけれど、今男性もそれに続いて、60歳を過ぎた定年の方だけではなく

て、仕事を持ちながら自由な時間を取れるような男性も入ってきて、ちょうどいい感じに半分半分ぐらいに活動しています。本当にまちづくりの協働でもないですけど、男女共同の場にもなっていて、とても良い相乗効果が出ているなど感じているところです。

### (佐々木座長)

そういう意味では、この「女性活躍の風土があり」というところの、その風土というのが少し違うような気がしますよね。

増田さんもおっしゃっていたように、男性は活躍しない風土なのかという、あえて男性を立てていただいたと言えばそうなるのかなと思いますけれど、そういう意味では男女だけではないですよ。共同参画ということが言われていますけれども、その辺をふまえて男女共同であるとか、今は多様性が特に言われておりますので、ここの四番目は少し加筆が必要かなと思っていました。加筆といいますか、少し意味の捉え方ですね。

それでは、3、4、5と話し合っていきたいのですが、特に1番、2番というのが、皆様方の生活に関わっている地域の課題、あるいは地域の特性というところですので、時間を多くとって話を進めてきました。

次は少し行政的なところにもなってきます。この「まちづくりの基本となるルール策定の背景と方向性」ということで、このような形で今後どのように指針を進めていくかという具体的なことになります。この辺ですね、ご意見いただければと思います。

最初は条例の話です。阪神・淡路大震災以降ということで書いております。自治基本条例のようなものを念頭においてこの部分が書かれていると思いますが、一つのモデルが全国に広がっていった一方で、駆け込みの需要がありまして、確か2009年辺りに、法の改正などに駆け込んで多く作られていて、最近また自治基本条例にとらわれない多様な形の条例、あるいは方針が今全国で作られています。

特に最近では総合計画も2019年の7月でしたか義務付けが廃止されて、むしろ地方創生なども含めまして自治体側からどんどん意見を出していかなければならないこととなっています。

そのときに、やはり自治体からと言いましても、実際には地域の住民の皆さんと考えて出していけないと、国も通っていけないということで、むしろ条例で定められたことが今、全国の自治体の中で当然のことのようになってきており、その中で、さらにプラスアルファで自分のまちをどのように進めていくのだということが求められています。アイデアのある自治体は良いのですが、無い自治体は苦しんでいるというのが実情なのかもしれません。

今町村制も第二段ですね。国から通知がありまして、その中では、例えばソサエティー5.0であるとか、SDGs、そういったものを念頭に置きながらまちづくりをするという方針も伝えられている中で、行政と地域住民が一緒に知恵を出し合わないアイデアを出せないというような時代になってきていると、私自身は認識を

しています。

次のところを見ていくと、富谷市の総合計画で協働まちづくり推進というものを位置付けてきたということが書かれていて、それが更なる推進を図るために、議会とか審議会の議論を経て、その中で指針、仕組みが必要だということが掲げられて、それで今私たちがここにいるということになります。これはこれまでの歴史ですね。

次に書かれているのがこのルールです。このあり方について富谷市はどういったものが良いのだろうかということで、書かれているということになるわけです。実際この懇話会の冒頭で私もお話ししましたがけれども、当時、参加とか参画という言葉が非常に強調されて言われました。それは、もともと行政の考えているものにはじめから一緒に参画すると、あるいは参加するということだったのですけれども、最近はそのような地方創生の動きなどを見ていまして、地域の活動にむしろ行政が参加するような、逆のような動きも少し出てきているのですね。

場合によっては、行政がやるとなれば予算をつけなければならないということがあるのですけれども、住民の皆さんが積極的にやっていることであれば、むしろそのままやってもらった方がコスト的には良い。もちろん住民の皆さんは行政の負担を軽くするために活動しているわけではなくて、自分のまちを良くしたいために活動しているのですけれど、結果としてそれが行政側にとってメリットにもなっているのではないかなとみているところです。

今この丸の四つ目も、いろんなこれまでのアンケートなどから少しこれまでのものをですね、条例を作るのは本当は難しくはないのですね。いろんな全国の条例を何百と見ていますけれど、コピーしていると言ったら変ですけど、同じようなニュアンスのものが結構多くて、もちろん学生にも日頃レポートを出すときに、コピーは駄目だよと言っているのですけれど、現実、一つのモデルがあって、それが金太郎飴のように広がったということがあるのだと思います。

そのような中で富谷の場合、市民が共通理解できるものが必要ではないかということがここで書かれているということになるわけです。そして、「このことから」と書いておまして、ですので今日もゼロベースからの議論になっているわけですがけれども、皆様方に忌憚のない意見をいただいて、考え方や方向性を示して、次年度になりますけれども、指針というものを作っていくことになっています。

そんなとき、先ほどご意見をいただきましたもっと若い世代の意見も入れたらいいのではないかななどは、これから反映できるのではないかなと思いますし、若い人たちも言いたいと思っている人たちが多くいるのではないかということが今日の議論でも明らかになってきました。

私の方で少し解説をさせていただいていますが、4番目、「指針の目的と役割」ということで、機運や取組というものが従来にも増して高まっているということ、それは一つ市政移行がきっかけなのだということが書かれているということになります。

それで「このような中」ということで、アンダーラインが引いてあるところは、私の方からセミナーでもお話をしたのですけれども、これまで協働の定義が、当初

は地域住民と行政職員の二種、二つの主体だったものが、最近は多様なセクター、あるいは多様な主体と言われてきておりますので、それを反映していただいているということになるわけです。

ということで、少し5番目を利用した方がやりやすいのかなと思います。最後ですね、前回は皆さん方と話し合っ、大きく改善をしていただいたというところがこの5番目ということになります。せつかくですので皆さん一言ずつご意見をいただければと思います。5番目の(1),(2),(3)について、大体1人1分くらいでコメントをしていただきたいと思います。

### (佐々様)

はい。私は、「(3)わかりやすい指針の策定」ということで、昨日、台風19号関係で、丸森町の方に災害ボランティアに行ってきました。社協の若い職員と黒川郡内の仲間たちで行ってきたのですが、そのとき60人くらいボランティアに来ていました。遠くは福岡から、あとは愛知、東京からということで、お昼を食べながら震災の話や地域づくりについて話をしたときに、この「わかりやすい指針」と少し共通するようなテーマが少し出てきたので紹介したいです。

この中の「多世代が共有できる」の部分なのですが、一つの目的に向かって方向性が同じだと、やはり市民も住民もまとまりやすいというか、昨日は災害ボランティアが一つのキーワードになったのですが、全国からも同じ目的で集まって、復興というキーワードに向かって思いを一つにするという、本当に活動が終わったときに、達成感以上に繋がりというのがすごく深まったなと思います。

そのために、私たちも社協で意識しているのが、やはり情報をきちんと伝えてあげることが、市民の方にはとても大事だと思うので、まとまっていたくためには、分かりやすく、より明確に伝えるということがこれから必要なのかなということと、やはりこういった指針を作っていただくのであれば、やはりそういった形で方向性を明確化していただいて、本当に市民の方が手にとって分かるような目的にすると、少しでも同じような方向に向いていくのではないかなと思います。

### (柳山様)

この「ゆるやかな枠組みとして策定」というのを今少し読んでいたんですけども、お互いのボランティア活動をやられている方の繋がりといいますか、社協さんで以前にそういう講師を呼んで、富谷市でボランティアをやっている方を集めて島を作って、いろいろと座談会というか懇談会をやったことがあります。

そこで新潟市のいろいろな事例がありまして、非常に参考になったという記憶があるので、そういうことをやっていただいて、ボランティア活動の方々のそれぞれの意見といいますか、やっている現状をお互いに知ることができて、それが非常に参考になりました。

これからもそういうことを社協さんで母体となってやっていただけると、そのような機運が盛り上がってくるのではないかと私は思っています。それに繋がります

けれど、この2の「市民の思いや活動を理解し、まちづくりに関わる様々な主体の気づきと行動につながる実効性のある指針とします」というのは、そういうボランティア活動のお互いのコミュニケーションの結果、このような市民の活動の理解に繋がってくるのではないかと考えております。そういう意味で、基本的にはボランティア活動をやっている団体、あるいは行政区長さんとか、行政区の中において、いろいろと活動をされている方の思いが、市とコラボして、機運が高まっていくのではないかという気がします。

#### (戸嶋様)

(2)の「気づきと行動につながる」ということで、私は常にというわけではないのですが、民生委員をやっていますので、いろんな家庭を訪ねたりとか、外で会っても手を大きく振りながら声を掛け合っています。それで、こういうことがあるよとか、市のことであったり、社協のことであったり、そういうのも大きい声で話をしています。

#### (佐々木(吉)様)

「ゆるやかな枠組みとして策定」ということで、大変良い表現になっていると思います。

まちづくりに関わる様々な主体というと個人とか団体ということですが、お互いを尊重しながら皆で思いが同じ住みよくよりよいまちにしたいということで、対等な立場でというのが協働の中には入るかと思しますので、対等な立場で協働を促進できるという表現というのが、大変嬉しく思います。

それから3番目の「わかりやすい指針」ということなのですが、「あらゆる世代の人が読みやすく」とあるのですが、私的にも少し理解できないところがありまして、例えばカタカナで書いてある部分ですね。前のページの「女性活躍の風土があり」の中で、「様々な経験やスキルを持った人間が集まっています」とかですね、それから、「公益法人やNPO法人との連携が進んでいます」となっていますが、公益法人とはどういう団体のことを表しているのでしょうかということ、多分社協とかシルバー人材センターなどだと思うのですが、一般の人には公益法人というのがどういうことなのか分からない人も多いのではないかと思います。それからもう一つ「グローバルな視点に立った取組みを進めています」は大変申し訳ないのですが、私的にはなかなか理解ができるところではないということ、この辺もこういう字が入るのであれば、もう少し砕いた表現にしていただければ大変嬉しいかなとは思っています。

#### (増田様)

前回の話し合ったことを、本当にこの文章の中で、すごく折り込んでくださっていると感じています。

(2)の中の「総合計画と整合性を図り」というところ、まず私たちが市と一緒に

にやりたいといったときに、やはり市というのは、この総合計画に基づいた行政と  
いうのをやっているのです、そこからはみ出たものを持って行っても行政は困ってし  
まうということで、「総合計画と整合性を図り」というこの総合計画というのが入っ  
たのもいいなと思います。

それから少し戻って、3番の「まちづくりの基本となる」というところに、ルー  
ルという言葉に対する皆さんのこだわりというのがある、それをちゃんとここに  
明記したことで、これはルールというものは確定ではなくて、それも含めどうするか  
ということが打ち出されているので、とても良いのではないかと感じます。

#### (佐々木座長)

そのルールの部分ですね。確定ではないというのをきちんと明記したというこ  
とは重要なのではないかなと思います。やはり富谷らしい言葉を作るというのも一つ  
重要だと思いますね。

#### (平間様)

1番の「ゆるやかな枠組み」としてというのがあるのですけれども、この中で「住  
みよくよりよいまちにしたいという思いを共有し、協働を促進できる」でお互いに  
情報も共有できたら、もっと理解ができるのではないかなと思いました。

#### (村上様)

皆さんおっしゃっていたのですけれども、私も「ゆるやかな枠組み」というと  
ころの「住みよくよりよいまちにしたいという思い」というところであったり、「わか  
りやすい指針」というところでは、「あらゆる世代の人が読みやすく、多世代が共有  
できる」というところを、富谷らしくというところに落として言葉にしていけたら、  
すごくいいなと思いました。

#### (佐藤様)

文言の部分で皆さんからいろんなご意見をいただいたところでございますけれ  
ども、そういった形で、本当に分かりやすくという部分が一番なのかなと思います。

やはりなかなかこういったルールであるとか、総合計画とかというのは、我々一  
般市民にとってはとっつきにくい部分がございますので、やはりそこをどのように  
一般市民に分かりやすく、理解いただけるような形で、やっていくかというのが一  
番かなと思います。

あと、こういった形でルールを作るのですけれども、今度は実践という形の中で、  
ではどうやっていくのかという部分も大きな問題になってきますので、その辺もふ  
まえて作っていただければと思います。

#### (平岡様)

フォーラムとか、この懇話会などいろいろありますけれど、参加した人から出ら

れなかった人たちに繋げていく。そういうところからはじまって、自分の住んでいるまちで、住んでいるところ、住んでいる場所。そういうところを良くする。「住みやすい」本当に簡単な言葉で言えば、そういうことだと思うのです。

まず、一つ一つの町内会の人たちがまとめていって、それを47の町内会があるので、そこから繋げていったら、なかなか難しいですけども、やはり繋がっていくことが一番だと思います。難しいことを言わないで、今住んでいるところを良くするために皆でいろんなことを繋げていきましょうということを、私はいつもそう誓って自分でやっています。堂々と皆に、何でもやるからついてきてという感じで私はやっているのです、そういう感じでやっていかないと誰もついてこないと思います。それで、困ったときは市の方に相談しながらやはりそこかなといつも思います。

### (佐々木座長)

そうですね。確かに難しいことを難しく言うのはできるのかもしれませんが、ややもするとこういうことは、書くと難しくなってくるのですが、実は難しくありません。もしかしたら子どもたちも常日頃こうしては駄目ですよとか、こうしたら良いですよと言っていることが文言に書かれていくと、難しくなってしまうのかなというところはあったかだと思います。

カタカナの問題もありましたけれど、むしろいかに多様なセクターということで、これまで地域住民、それもある程度代表的な地域住民と行政職員でしたけれども、ありとあらゆる人たちを巻き込んで、もちろん全員参加ということはないと思いますけれども、そのためにはやはりとにかく分かりやすくということをやっていくということが重要なのかなということをお話を聞かせていただいて感じたところです。

最後、佐藤さんが言っていましたけれども、実践者の言葉だなと思いましたがけれども、実践のための指針なのだということは、強く意識する必要はないかだと思います。

ちなみになりますけれども、仙台市の協働の手引きを、事例集を作ったらいいのではないかということは私の思いつきではなくて、仙台市の事例集というのは14年前に作られて、全国に広がっていったものなのですけれども、そのトップページに書いてあったものです。

かつて加藤哲夫さんという宮城にNPOの父のような人がいまして、彼が本来であれば強力に実践を進めるための手引きであって、ただ実践がないからマニュアルを作るのだということを書いていたので、14年も経っているので、事例を出したらいいのではないかということを使ったのです。

そういう意味では富谷も分かりやすくということと同時に、実践というものがこれまで皆様が作り上げてきたものがありますので、そのノウハウとして何らかの形で可視化するということが、もしかしたら一つ、分かりやすい答えにも、分かりやすさという意味では一番分かりやすいのではないのかなと改めて私自身も考えております。

ということで、今日は多くの議論を展開させていただきました。我々はとりあえず今年度2回ということで、前回、今回と皆様にご話をさせていただいている中で、私自身も聞き入ってしまいましたけれども、やはり皆様方にきちんと発言していただけたのではないかなと思います。

本当に皆さんに議論をしていただきました。本当に資料も多く、読み込むにも時間がかかったと思いますし、忌憚なくお答え、あるいはご発言をいただきまして、本当に感謝をしたいと思っております。

それでは皆様方に確認、議決というわけではないのですが、決をとりたいと思っております。まず、この資料2につきまして、「まちづくりの基本となるルールの素案（案）」となっております。

これにつきまして、今日の意見をふまえて、事務局の方で、今の意見に基づいて修正をしていただくことを前提としてこの素案の（案）をとって、これを素案とすることで皆様よろしいでしょうか。

#### ※「異議なし」の声あり

それでは、皆様方の意見をふまえて、少し文言の調整を事務局で行い、そして私の方で確認させていただくという段階をふまえて、この素案（案）を素案とさせていただくということで、皆様方のご了解をいただきました。

それでは、事務局の方にマイクを戻したいと思っておりますけれども、2日間多くの宿題も皆様に出させていただきました。準備も含めまして、本当にありがとうございました。

引き続き、次年度に審議会ということも進んできますし、また、日頃のまちづくりで皆様には多大なるご活躍をしていただくということになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 4. その他

### (司会)

座長の佐々木先生、参加者の皆様、長時間に渡りまして貴重なご意見を頂きまして本当にありがとうございました。

本日頂きましたご意見は、改めて事務局で整理をさせていただき、素案の策定に繋げてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

策定にあたりましては富谷らしい飾らない言葉で来年度策定できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

その他といたしまして、皆様から何かございませんでしょうか。

※なし

※事務局から諸連絡事項説明

5. 閉会  
(司会)

以上をもちまして、令和元年度第2回富谷市協働のまちづくり推進懇話会を終了いたします。本日は大変お疲れ様でした。

以上